

2025 年度（令和 7 年度）学校評価自己評価表

神辺東中学校区	校番	福山市立竹尋小学校
最終更新日		2025 年（令和 7 年）4 月 14 日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	課題解決力・コミュニケーション力
・各校とも、知・徳・体に係る工夫した取組がなされている。児童・生徒のつますきへのアプローチや心の教育の充実、幼保小中連携教育を今後とも進めてほしい。	小集団での人間関係づくりはできるが、大きい集団における関わりには課題が見られる。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	自己を認識し、「なりたい自分」をめざし、自分の人生を選択し、自分らしく表現することができる。
・研究方法等の工夫が見られる。児童・生徒、教職員、保護者・地域が、ともに挑戦できる場を大切に、やりがいや充実感が一層向上することを期待する。	学習に向かう意欲や、努力する態度が育ってきた。	中学校区として統一した取組等	【学びづくり部】校区研究テーマを踏まえ、課題発見・解決型の学びづくりを行う。 【生徒指導部】小中及び小中連携・交流活動の実施、生徒指導規程の見直しを行う。 児童・生徒の実態交流及び連携を行い、進路指導について研修する。 【健康・体力づくり部】児童・生徒が自らよりよい生活習慣づくりをするための取組を行う。 ※よりよい学習習慣や生活習慣づくりに向けた系統的な指標「校区スタンダード」の作成

III 自 校

ミッション	育成する力 資質・能力	課題解決力	コミュニケーション力(学びに向かう力)
「いつもニコニコピンピン明るく元気に」の「ニコピン精神」を反映させた教育活動の伝統を引き継ぎ、持続可能な社会の担い手として、郷土への誇りを持ち自立した児童を育てることで、地域・保護者から信頼される学校にする。	低	問いを自分事として粘り強く考えることができる。	・自分の思いを、相手に伝わる声の大きさではっきりと伝えることができる。 ・相手の思いを受け止めることができる。
学校教育目標	めざす子ども像	中	相手の思いを受け止め、自分の思いも伝え、互いの考えの良さを語るができる。
自ら気づき、考え、行動する子どもの育成	高	自ら課題を見出し、より良い解決方法を考えて実行し、次の学習につなげることができる。	多様な考えがあることや互いの良さに気づき、伝え合うことができる。
現 状	研究	テーマ	「わくわく感をもって、課題を探究し、自分らしく表現する児童の学びの創造」 ～ 児童が進んで考え、表現する主体的な学びづくり ～
＜児童生徒＞ ○基本的な学びに向かう姿勢や学習習慣は少しずつ定着してきており、基礎学力も徐々に定着しつつある。 ○総合的な学習の時間や生活科で地域のよさに触れ、故郷への愛着を高めつつある。 ●学年単学級で固定化された学級集団で生活しているため、自分の良さを発揮する機会が限られ、自分の思いや考えを豊かに表現する力が弱い。	内容等		・単元を通して学び続ける問いの工夫や単元構想 ・児童自ら課題を発見、解決方法を共有し、協働的、対話的に学びが進む授業づくり
＜授業＞ ○「問い」と「言語活動」を中心に子どもが主体的に学べる授業づくりを行っている。 ○単元内自由進度学習を取り入れ、児童が学びを選択したり、学び方を振り返ったりすることで、主体的な学習者を育てる。 ●児童の実態と教材から読ませたい「問い」をつくるなど、「問い」を精選する必要がある。	めざす授業の姿		・児童一人一人が明確な課題を持ち、自己の学びに関連付けや振り返る授業 ・「課題発見・解決学習」の過程の中に、対話が位置づいた授業 ・自己選択・決定場面を設定し、児童が主体的に学び、表現している授業

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立竹尋小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価
2	自分の思い や考えをも ち、伝え合 う子どもの 育成	★	継 続	自分の学びの 選択や見直し を行い、学び続 ける学習者の 育成	○「問い」から学 びをつくる授 業構成の創造。 ○単元の内容に 応じて自由進 度学習を取り 入れ、個に応じ た学びの選択 ができるよう にする。 ○自分の意見 をもって対話に 臨める機会を 設定する。 ○帯タイムの時 間を利用して 基礎学力の定 着を図る。	○全国学力・学習 状況調査児童 質問紙32の肯 定評価90%以 上、29の肯定 評価75%以上 (全学年で実施) ○国語科・算数科 の単元テスト において、 70%未満の児 童を15%未満								
1	授業に地域 人材を活用 し、地域へ の愛着・貢 献する心の 育成	★	新 規	地域の課題を 見つけ、解決し ようとする児 童の育成	○総合的な学習 の時間や生活 科で地域や自 然を教材とし て、地域に関 する課題や疑問 に気づき、でき ることを考え る機会を設定 する。	○各学年で地域 の自然や文化 などに触れる 機会を設定し、 「地域の良さ や課題に気付 き、解決しよう とした」肯定的 評価85%以 上								
5	自らの目標 に向かって よりよく生 きる力の向 上		継 続	健康的な生活 習慣と主体的 な体力づくり による体力向 上	○体力づくりコ ーナーを設置 し、課題に応じ た運動に児童 主体で取り組 む。 ○メディアの使 用時間を調査 し、家庭と連携 してメディア 利用を減らす 取組を行う。 (メディアコン トロール週間)	○体力テストで の握力・長座体 前屈の平均値 を前年度の同 学年以上 ○メディア使用 時間の自己目 標を達成した 児童の割合を 70%以上								

3	個性や能力が 発揮できる学 校組織		継 続	自ら仕事内容を 把握し、一人一 人が目標を立て て実践する力の 向上	○個々が自分の 専門性や強みを 生かす目標設 定を行い、実 践する。 ○学校運営面 で教職員から の意見を求め ながら参画意 識を高める。 ○分掌について、 目的と方向性 を確認しなが ら企画立案す る。	○「仕事に意義 ややりがいを感じ ている」90%以 上 ○「本音を気兼ね なく発言でき、 個性が認められ ているという実 感がある」90% 以上 ○時間外在校時間 月45時間以内、 年360時間以 内の職員85%												
---	-------------------------	--	--------	--	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。